

3 「ふじのくに芸術回廊」の文化ゾーンの構築

(1) 「文化ゾーン」の考え方

ここまで、「ふじのくに芸術回廊」の実現に向けた5つの重点施策を示してきました。本県は、「回廊」と言うにふさわしい様々な文化が各地で展開しています。県内の各地域が固有に一流の文化資源を有し、美しい自然景観に恵まれ、古くから歴史の舞台となり、民話や伝説、伝統芸能が受け継がれ、大きな特色のある食文化も有しています。重点施策では、こうした本県内の特色ある文化をつないだ「文化ゾーン」の構築を進めることとしました。この項では、構築に向けて、県内の地域別の特色と目指す姿を整理します。

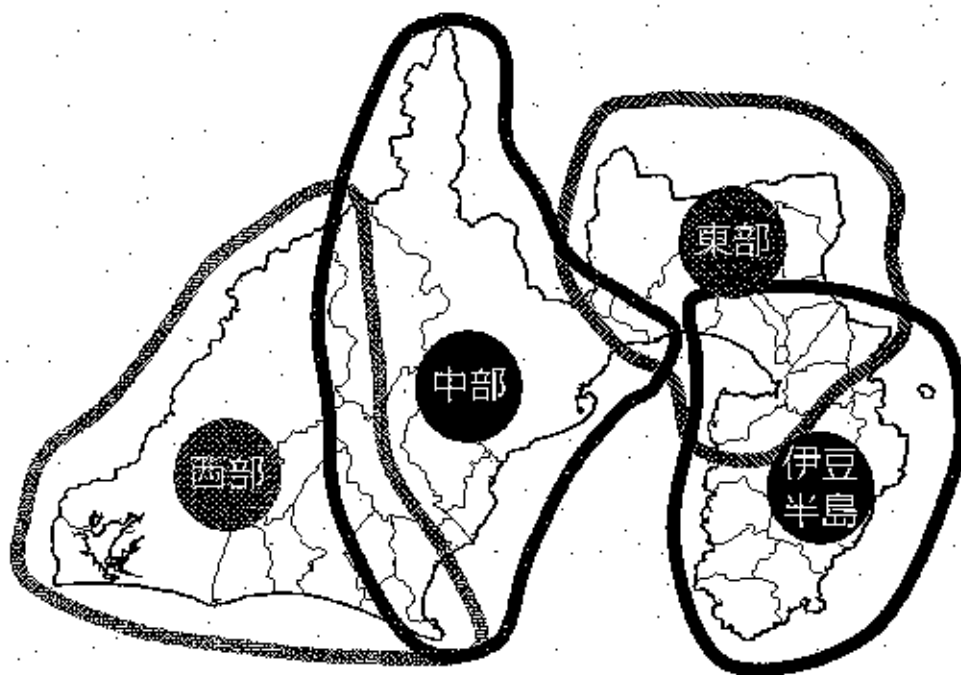
静岡県の新ビジョン（総合計画）では、県内を以下の4つの地域に区分しています。ここでは、文化に関しても、同様に4地域の特色を生かした文化振興の理想の姿を目指すこととします。

将来的には、地域の枠を超え、伝統的な文化財や文化活動、自然、食材、景観などが連携した様々な「文化ゾーン」を県内各地に構築し、その「文化ゾーン」をつなげることで、「ふじのくに芸術回廊」の実現を目指します。

今期は、本計画を推進する中で各地域の新たな文化資源の発掘や地域の特色を洗い出し、整理することで各地域の目指す方向、ゾーンの形成を探っていきます。

(2) 各地域の特色

各地域は、それぞれに特色のある多彩な資源を有しています。



◆伊豆半島地域

伊豆半島地域は、世界ジオパークに認定され、火山地域特有の地形の変化に富み、日本の歴史上でも重要な出来事が多く起きた自然的、歴史的背景に富んだ地域です。

歴史的には、平安時代、鎌倉時代の源氏や北条氏にゆかりのある文化財が多く残り、令和4年の大河ドラマの舞台となっています。江戸時代に移ると、韮山の幕末の当主江川英龍により建造された「韮山反射炉」が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産の構成遺産に登録されました。黒船が来航した下田を含む賀茂地域にも、時代を映す史跡が豊富に存在します。

また、著名な作家たちが題材としたり、滞在することにより、多くの文学作品が生み出された地であることも大きな特色です。県では、これを受けて伊豆文学賞を創設し、この特色を際立たせてきました。

食においても、世界農業遺産に認定されている水わさびや伊豆近海で漁獲される金目鯛等、豊富な山海の食材を中心に、多彩な食文化を楽しめる地域でもあります。

令和3年度には、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技が開催され話題となりましたが、併せて各地において文化プログラムも多く展開されました。

この地域は、過疎が進行し人口減少が懸念されますが、今後もアーツカウンシルの支援などを通じて、文化活動による地域の活性化が期待されます。

<目指す姿>

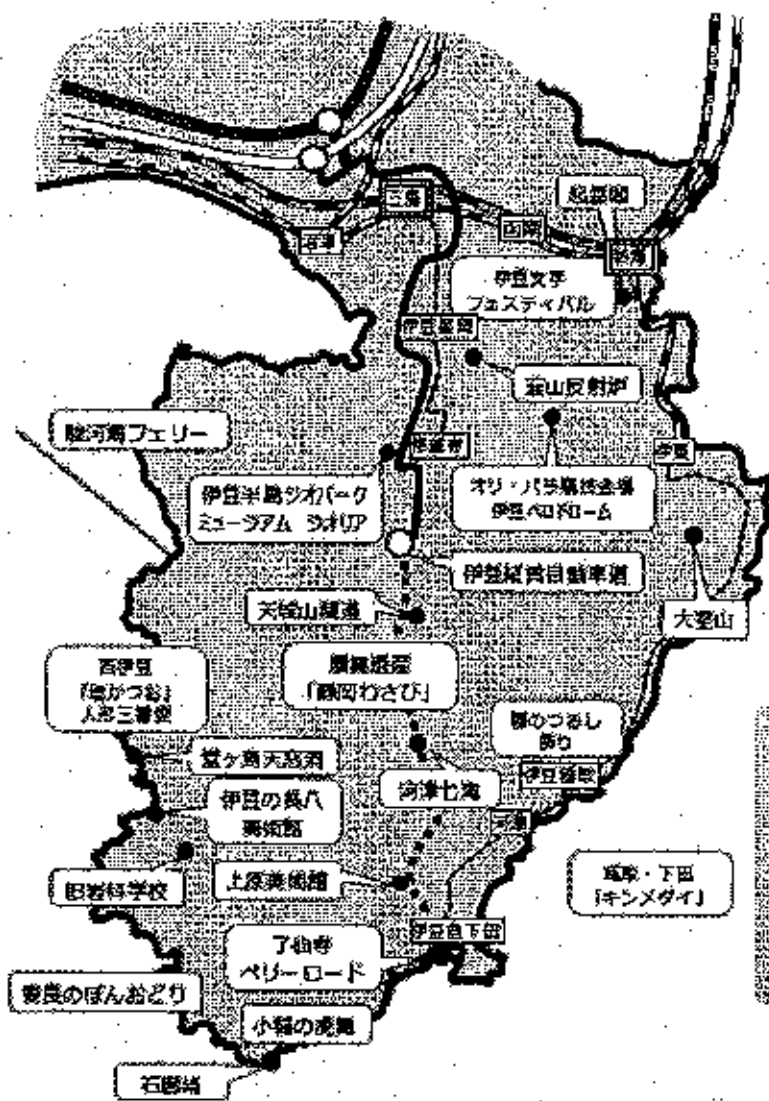
- ・特色ある美しい景観や歴史に培われた豊富な文化資源に加え、東京2020オリンピック・パラリンピックや静岡県文化プログラムのレガシーを生かし、観光と連携した情報発信を通じて人々が訪れたい伊豆独自の文化が展開する地域
- ・地域の住民にとっても、地元を誇り、愛着や魅力を増大させることにより、持続可能な文化あふれる地域づくりを展開する地域



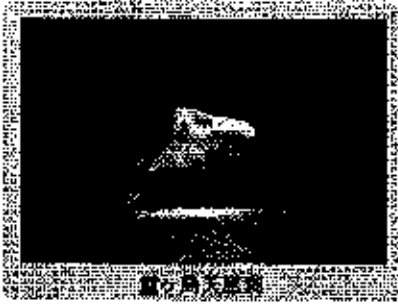
大妻山反射炉



伊豆パロドーム



駿河湾フェリー



寛文島大岩壁

◆東部地域

世界文化遺産富士山が古来より人々の憧憬と信仰の対象となり、構成資産をはじめ、多くの文化財を残している地域です。さらに、富士山が生み出す美しい自然や水に関わる天然記念物が多くあります。令和2年度には、静岡県文化プログラムとして、富士山の魅力を生かした芸術祭「富士の山ビエンナーレ」が行われました。

さらに、富士山周辺の文化拠点の中心として、静岡県富士山世界遺産センターがあります。世界遺産の価値を後世に継承し、周辺の文化資産も含めて、富士山の自然や歴史、文化の魅力を発信して、国内外から訪れる人々をもてなしています。

旧東海道の小田原宿から箱根峠を越えて三島宿に至る箱根八里は、日本遺産に認定された文化財ゾーンになっています。また、国宝を有する民間の美術館も多く、長泉町のクレマチスの丘にも文化芸術拠点としての魅力があります。沼津駅前の県のコンベンション施設プラサヴェルデも文化行事の拠点として活用が期待されます。

食においても、箱根西麓の肥沃な火山灰土壌で栽培される三島馬鈴薯や沼津市西浦の寿太郎みかんをはじめとする山の食材に加え、沼津港や田子の浦港では活あじやしらすなどの海の食材も豊富にあり、個性豊かな食文化が楽しめる地域です。

富士山に加え伊豆・箱根とも隣接した東部地域は、主に首都圏からの観光需要が多く、文化資源を効果的に観光に活用した文化振興が期待されます。

<目指す姿>

- ・富士山や伊豆・箱根地域の観光の拠点となる街の特徴を生かし、首都圏を中心に国内外との交流を活性化し、観光と経済が効果的にマッチした文化振興を展開する地域
- ・世界文化遺産富士山の価値を地域総がかりで守り、世界に魅力を発信し、その恵みを共有・活用することで、世界に誇る独自の文化を発展させる地域

◆中部地域

県庁所在地の静岡市は、徳川家康が晩年を過ごし、城下町として歴史と伝統が息づく文化の街です。静岡県立美術館、グランシップ、静岡県舞台芸術公園、ふじのくに地球環境史ミュージアムなど、本県の文化芸術の拠点が数多くあるほか、SPACが公演を展開しています。また、静岡大学、静岡県立大学、県立中央図書館などの学術の拠点も有しています。

中部地域には、旧東海道の宿場町も多く、蒲原宿から藤枝宿の間は日本遺産にも認定された文化財ゾーンになっており、島田市の大井川川越遺跡などにも江戸の文化を感じることができます。

観光の面においても、日本平、三保松原の景勝地や、社殿が国宝に指定されている久能山東照宮、山間部には南アルプスを望む大自然があります。西側の志太榛原地域には、空の玄関口富士山静岡空港があり、その眼下に広がる牧之原台地は、日本が誇るお茶の産地です。

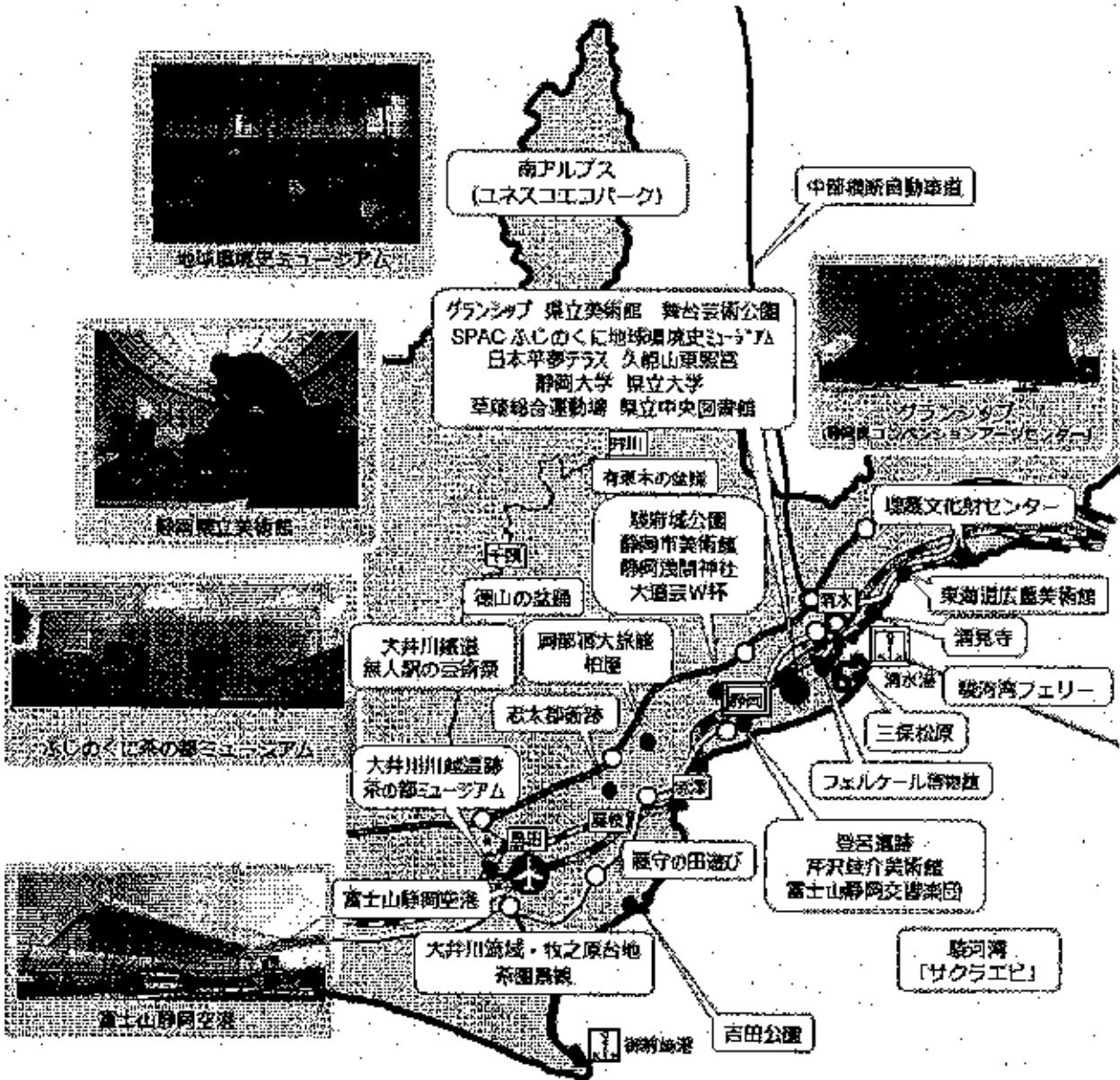
食においても、焼津港や清水港など国内有数の漁港があり、かつおや桜えび等の駿河湾で採れる魚介類をはじめ、豊富な山海の産物を使った中部地域特有の食文化が楽しめる地域でもあります。

さらに、志太地域の大井川流域では、無人駅の芸術祭やWABISAVILLAGE SASAMAなどの文化プログラムが定着し、地域と文化の連携も進んでいます。

本県文化の中心として、恵まれた文化環境の下で、本県独自の一流の文化が大いに花開き、国内外からも注目される文化の都を目指した文化振興が期待されます。

<目指す姿>

- ・歴史と伝統が息づく本県文化の中心地として、洗練された魅力を生かした文化芸術の創造を積極的に推進し、地域の人々が誇りを持てる文化の都としての地域
- ・新幹線、富士山静岡空港、清水港など利便性の高い交通ネットワークを活用し、豊富な文化資源と観光を融合して、国内外から多くの来訪者が集う県のにぎわいの中心としての文化交流地域



◆西部地域

西部地域は、浜名湖や館山寺温泉、遠州の強風が造った広い砂浜の遠州灘を持ち、観光の魅力にあふれています。浜松市北部には大河ドラマ「おんな城主直虎」の舞台となった地域があり、浜松城は徳川家康が青年期を過ごした場所です。また、新居関跡や遠州三山と呼ばれる古刹、多くの寺社仏閣が文化財として残る歴史ある地域でもあり、田遊び・田楽といった伝統芸能が多く残ることも特色となっています。中東遠地域も、掛川城御殿や大日本報徳社大講堂など、多くの貴重な文化財が残る地域です。

西部地域の中心となる浜松市は、テレビ、輸送機器、光技術など世界に誇る産業技術を生み出してきた産業都市です。さらに、音楽に関しては、世界有数の楽器メーカーの多くが集積し、ユネスコ創造都市ネットワーク（音楽分野）に加盟する音楽の都です。浜松駅前のコンベンション施設アクトシティ浜松を拠点として、オペラやピアノの権威ある国際コンクールが開催され、産業、文化の両面から日本の音楽をリードしています。

食においても、県内一の農業地帯を抱え、メロンやうなぎなどの高級な食材をはじめ、豊富な農産物に恵まれ、個性ある食文化が楽しめる地域でもあります。花の生産も盛んな地域で、浜名湖ガーデンパークやはままつフラワーパークでは一年中様々な花が楽しめます。

西部地域は、浜松市の音楽イベントや掛川市の「かけがわ茶エンナーレ」などの文化イベントが豊富な実績を上げているほか、静岡文化芸術大学においては文化人の育成も進めるなど、豊かな文化環境の中で多彩な文化が花開く文化振興が期待されます。

<目指す姿>

- ・世界有数の音楽の都としての環境や、歴史ある文化財、豊富な食材・花などの地域の魅力を最大限に生かして、国内外から多くの来訪者を集める多彩な文化が展開する文化創造地域
- ・日本有数の産業技術と豊富な文化資源をにぎわい・交流の源泉として、新たな価値を創造し、人々が多彩な文化を楽しみながら力強く発展する地域

第5章 | 計画の推進と進行管理等

1 計画の推進

(1) 計画の推進

本計画は、静岡県の新ビジョン（総合計画）との整合を図った上で計画期間を決定しており、その計画期間中に行う具体的な施策、事業を明らかにしています。

その上で、計画策定後はその内容を広く周知し、県民、市町等関係機関の理解の下、連携・協働して事業を推進します。

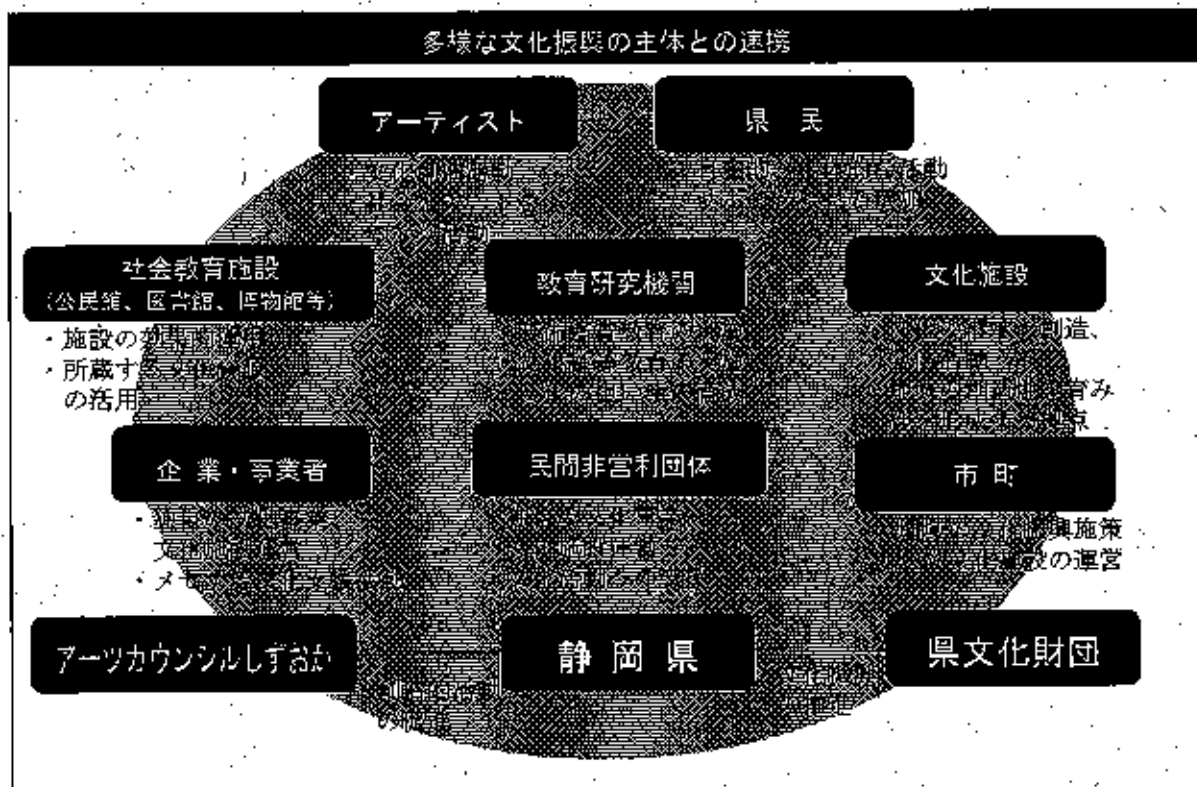
(2) 連携体制

県には、県立美術館、グランシップ、舞台芸術公園をはじめとする県有施設や、出資団体である県文化財団、SPACなどの推進機関、そして令和3年1月に県文化財団に設立されたアーツカウンシルしずおかがあります。

本計画の推進に当たっては、これらの施設・機関と役割を分担しながら、効果的な施策展開を図ります。

さらに、市町をはじめ、大学等の教育機関、文化施設、文化協会、アートNPOなどの文化関係団体や、企業・事業者等様々な主体との相互連携を推進します。

県は、自らも文化振興の主体として施策を展開しつつ、様々な主体間の調整や支援等を積極的に行うことで連携による成果を高め、県民等の文化活動を支えていきます。



2 計画の進行管理

本計画においても、重点施策ごとに評価指標及びその目標値を設定するとともに、毎年度終了後に実績値に基づく達成度を取りまとめ、公表します。

また、本計画の全体的な進捗状況を評価する総括指標には、静岡県の新ビジョン（総合計画）における成果指標を採用することとし、これについても毎年度終了後に進捗状況を取りまとめた上で公表します。

● 第5期文化振興基本計画における活動指標、成果指標

区分	指標	現状値	目標値
総括指標	自分が住んでいる地域の文化的環境に満足している人の割合	(参考) (R3) 29.7%	(R7) 40%
	1年間に文化・芸術の鑑賞又は文化活動を行った人の割合	(R3) 41.6%	(R7) 75%
	富士山の世界文化遺産としての顕著な普遍的価値を理解している人の割合	(R2) 25.0%	(R7) 50%
	アートプロジェクトが行われた市町数	(参考) (R3) 13市町	(R7) 35市町
	文化財保存活用地域計画の国認定を受けた市町数	(R2) 0市町	(R7) 18市町
	観光レクリエーション客数 (文化・歴史分野)	(R1) 30,109千人	調整中
重点施策1	S P A Cの国内外の公演等鑑賞者数	(R2) 21,727人	(毎年度) 45,000人
	伊豆文学賞の応募者数	(R3) 454人	(毎年度) 500人
	富士山世界遺産センター来館者数	(R2) 74,339人	(毎年度) 300,000人
重点施策2	ふじのくに芸術祭・障害者芸術祭の参加応募者・鑑賞者数	(R1) 26,114人	(毎年度) 35,000人
	アートプロジェクトに関する相談件数	(参考) (R3) 130件	(毎年度) 100件以上
	県文化施設来館者数	(R2) 306,150人	(毎年度) 660,000人
重点施策3	子ども向け文化教育事業参加者数	(参考) (R1) 86,404人	(毎年度) 100,000人
	S P A Cの国内外の公演等鑑賞者数(再掲)	(R2) 21,727人	(毎年度) 45,000人
	県文化施設来館者数(再掲)	(R2) 306,150人	(毎年度) 660,000人
	グランシップ企画事業の来場鑑賞者数	(R2) 6,436人	(毎年度) 100,000人

	ふじのくに芸術祭、障害者芸術祭の参加応募者・鑑賞者数（再掲）	(R1) 26,114人	(毎年度) 35,000人
重点施策4	アーツカウンシルしずおかが助言・相談した団体・個人の数	(参考)(R2) 38団体・人	(毎年度) 100団体・人
	舞台芸術公園来場者数	(R2) 15,832人	調整中
	県によるネットワーク形成のためのセミナーやミーティング参加市町及び団体数	(R1) 55人	(R7) 70人
重点施策5	県文化施設のホームページへのアクセス件数	(参考)(R1) 1,471,732件	(R7) 2,000,000件
	アーツカウンシルしずおかが助言・相談した団体・個人の数（再掲）	(参考)(R2) 38団体・人	(毎年度) 100団体・個人
	県指定文化財新規指定件数	(R2) 4件	(累計) 12件

現状値については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた指標については、令和元年度の数値を記載するとともに、新たに設定した指標については、類似指標の数値を（参考）として記載しています。

なお、主要指標の他、第4章で重点施策ごとに記した各指標とあわせて、計画の進捗管理を行います。

● 主要指標の考え方

総括指標	地域の文化的環境に満足している人の割合（文化芸術の鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的町並みの保存・整備）		
現状値	(参考)(R3) 29.7%	目標値	(R7) 40%
指標の考え方	いつでもどこでも多彩で魅力的な文化に出会える「ふじのくに芸術回廊」の実現に向けて、県民が本県文化を誇りに感じ、文化芸術を活用した地域活性化が進むことで、県民の文化的環境への満足度が高まると考え、指標として選定します。※令和3年に本県で実施した「文化に関する意識調査」の結果を基準として、目標値を設定します。		

重点施策1	世界に輝くしずおかの文化芸術の振興		
評価指標	SPACの国内外の公演等鑑賞者数		
現状値	(R2) 21,727人	目標値	毎年度 45,000人
指標の考え方	既に一定の世界的評価を得ているSPACは、「演劇の部」を構成する象徴であるとともに、本県の文化力を国内外へ発信する役割を担っています。国内外での上演を通じた知名度の一層の向上に向けて、公演等鑑賞者数を指標とします。		

重点施策2	社会の多様な担い手による創造的な活動の推進		
評価指標	ふじのくに芸術祭・障害者芸術祭の参加応募者・鑑賞者数		
現状値	(R1) 26,114人	目標値	毎年度 35,000人
指標の考え方	本県最大の総合芸術祭であるふじのくに芸術祭、令和2年に健康福祉部から移管された障害者芸術祭の開催を通じて、創造活動の一層の推進、共生社会の実現に向けて取り組んでおり、この理念の広がりを示す2事業の参加応募人数を指標とします。		

重点施策3	文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進		
評価指標	子ども向け文化教育事業参加者数		
現状値	(参考)(R1) 86,404人	目標値	(毎年度) 100,000人
指標の考え方	次代を担う子どもたちへ文化芸術に触れる機会を県として提供できているか確認するため、県や県文化施設等による子ども向け文化教育事業（幼児～高校生向け）参加者数の合計数を指標とします。		

重点施策4	文化芸術を振興する仕組みの充実		
評価指標	アーツカウンシルしずおかが助言・相談した団体・個人の数		
現状値	(参考)(R2) 38団体・人	目標値	(毎年度) 100団体・人
指標の考え方	県民主体の創造的活動を支援するアーツカウンシルしずおかは、本県に新たに生まれたプラットフォームであり、これにより助言・相談対応した団体や個人の数、創造的活動の活性化が図られているかを表す指標とします。 ※現状値には、アーツカウンシルしずおかの前身的機関である静岡県文化プログラム推進委員会による令和2年度の助言・相談件数を参考値として記載しています。		

重点施策5	持続可能な文化活動の推進		
評価指標	県文化施設のホームページへのアクセス件数		
現状値	(参考)(R1) 1,471,732件	目標値	(R7) 2,000,000件
指標の考え方	県文化施設（県立美術館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、富士山世界遺産センター）のホームページの充実、収蔵品データのデジタル活用を促し魅力的な企画を伝えるなど、県民にデジタル鑑賞機会の提供を行うとともに、来館者の増加にもつながることから、アクセス件数を指標とします。		

